読者と朝日新聞をつなぐ

表題と写真は朝日新聞 4 月 27 日「フォーラム」である。リードから―朝日新聞社は今月からパブリックエディター(PE)制度を始めています。社外の 3 人に本社員を加えた 4 人が、読者やお客様から寄せられたご指摘やご意見を受け止め、日々の紙面について議論し、報道に生かす取り組みを進めています。

2015年 4月27日 月曜日

フォーラム

読者と朝日新聞をつなぐ

パブリックエディターから

過ち 認め信頼の基礎に

季刊誌「考える人」編集長 河野 通和さん

紙面通じた真の対話を

タレント・エッセイスト 小島 慶子さん

多様な意見吸い上げて

元NHKキャスター 高島 肇久さん

昨年 9 月 14 日「声」欄に「時の権力への批判を緩めるな」と題した私の投稿が掲載された。もう一度だけ。「朝日新聞、しっかりしろ」と言いたいと激励した。その後いくつかの改革に注目し、紙面をチェックしてきた。

今回の PE 制度についても、どのような役割を果たすのかを期待して記事を読んだ。3 人の社外エディターは季刊誌「考える人」編集長の河野道和さん、タレント・エッセイストの小島慶子さん、元 NHK キャスターの高島肇久さんである。それぞれの報告には、順に「『過ち』認め信頼の基礎に」「紙面通じた真の対話を」「多様な意見吸い上げて」という見出しがついている。納得できる指摘も多かったが、高島さんの報告には強い疑問を感じ、何度も読み返した。長くなるが、一部を紹介しておこう。

「4 月 6 日の朝。東京の朝日新聞の 1 面トップの見出しと記事に違和感を覚えた。菅官房長官と翁長沖縄県知事との初会談を伝えたものだが、主見出しは知事の言葉から「辺野古移設『絶対にできない』」。添えられていたのは、翁長知事が目を合わさずに菅長官と対峙する写真だ。『会談は平行線に終わるだろう』と思ってはいたが、この見出しで『予想を超える対立点が出たのか』と驚いた。在京他紙は全て『会談は平行線』。朝日が突出していた。（普天間の危険性を）無くす早道は名護市辺野古への移転だと私は思う。県外や国外の議論はそれと並行して進めれば良い。　4 月 8 日。パブリックエディターの初会合が開かれ、私はこれらの点を発言した。9 日後、安倍首相と翁長知事との会談が行われたが、翌朝の東京の朝日新聞 1 面トップの主見出しは『首相と翁長知事　平行線』。写真は握手を交わす 2 人の姿で菅・翁長会談の時とは様変わりしていた。政治状況の変化か、編集側のどんな判断か、いずれ聞いてみたいが、紙面には落ち着きが感じられた。」　この報告に疑問を感じ「声」欄に投稿した。私の「声」は届くか。

（2015年5月4日）